

令和5年度 第1回 総合教育会議

# 学力向上策の 取組みについて



令和5年8月21日  
教育委員会事務局  
学校教育課



# いわき市 学力向上の取組 未来を拓く「いわきの学び」

## 令和4年度

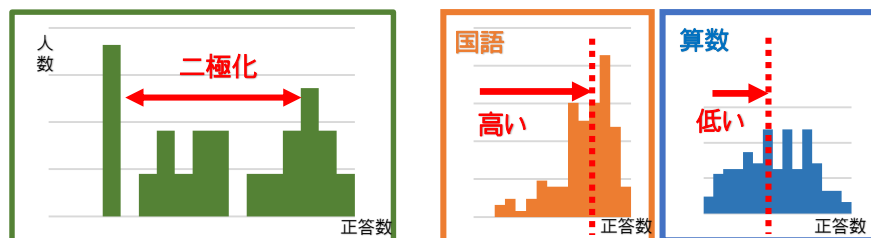
### ○学力向上チームの発足

学力向上アドバイザー(3名)と指導主事からなる専門チームを創設し、データ分析と指導助言体制を確立

### ○学校カルテの作成 (第1世代)

全国学調のデータを基に全体の平均値ではなく、学校単位で詳細に状況を分析

判明したこと ⇒ 学校毎の状況の“見える化”  
「学力の二極化」と「教科間の差」の存在



### ○学力向上チームによる学校訪問の開始

- ・学校カルテや授業視察を踏まえ、学校経営の観点でアドバイス(学力向上アドバイザー ⇒ 校長)
- ・授業改善の技術的アドバイス(指導主事 ⇒ 各教員)

## 令和5年度～

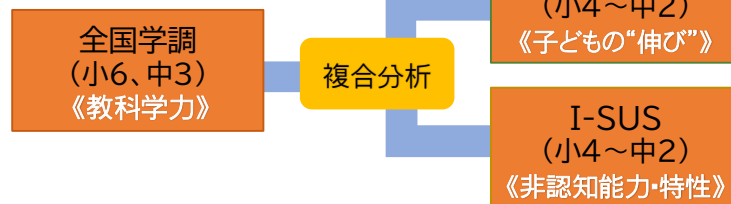
### ○学力向上チームの体制強化

- ・学力向上アドバイザーの増員(+1名、計4名)  
⇒ 学校訪問回数を増加
- ・特別支援教育アドバイザーの増員(+1名、計2名)と学校訪問への帯同  
⇒ 特別支援教育の観点から学習環境の改善指導

### ○学校カルテの進化 (第2世代)

- ・全国学調、ふくしま学調、本市独自アンケート調査(I-SUS)の各データを連動させて分析

【子どもの“伸び”の要因を分析】



### ○授業改善の取組 (学校訪問に加え)

- ・教員研修の見直し(授業改善講座の充実)
- ・研修動画の作成
- ・授業のユニバーサルデザイン化(見やすい・聞こえやすい配慮)



# 令和4年度の取組

## ○学力向上チームの発足

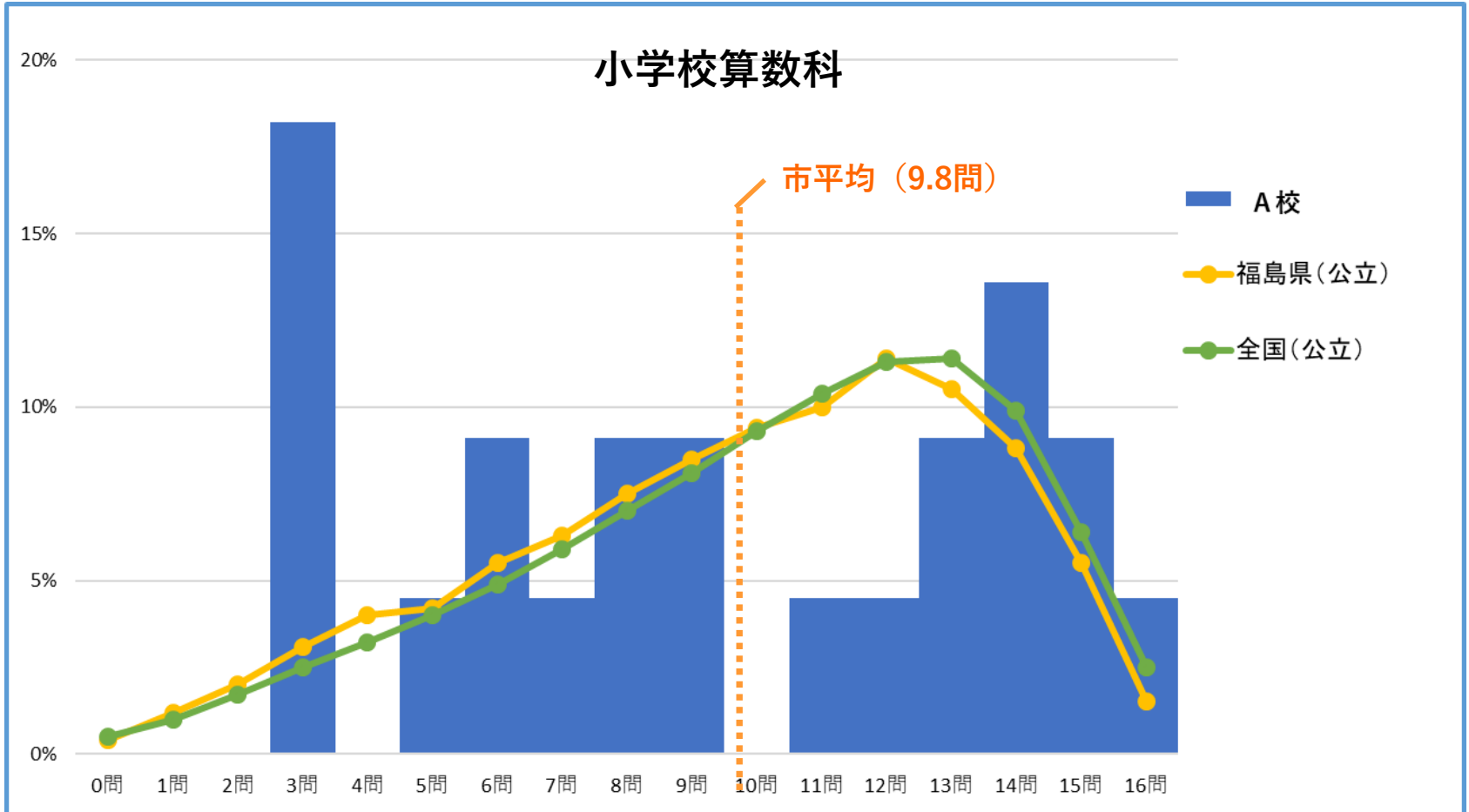
学力向上アドバイザー(3名)と指導主事からなる専門チームを創設し、データ分析と指導助言体制を確立

## ○学校カルテの作成 (第1世代)

全国学調のデータを基に本市全体の平均値ではなく、学校単位で詳細に状況を分析



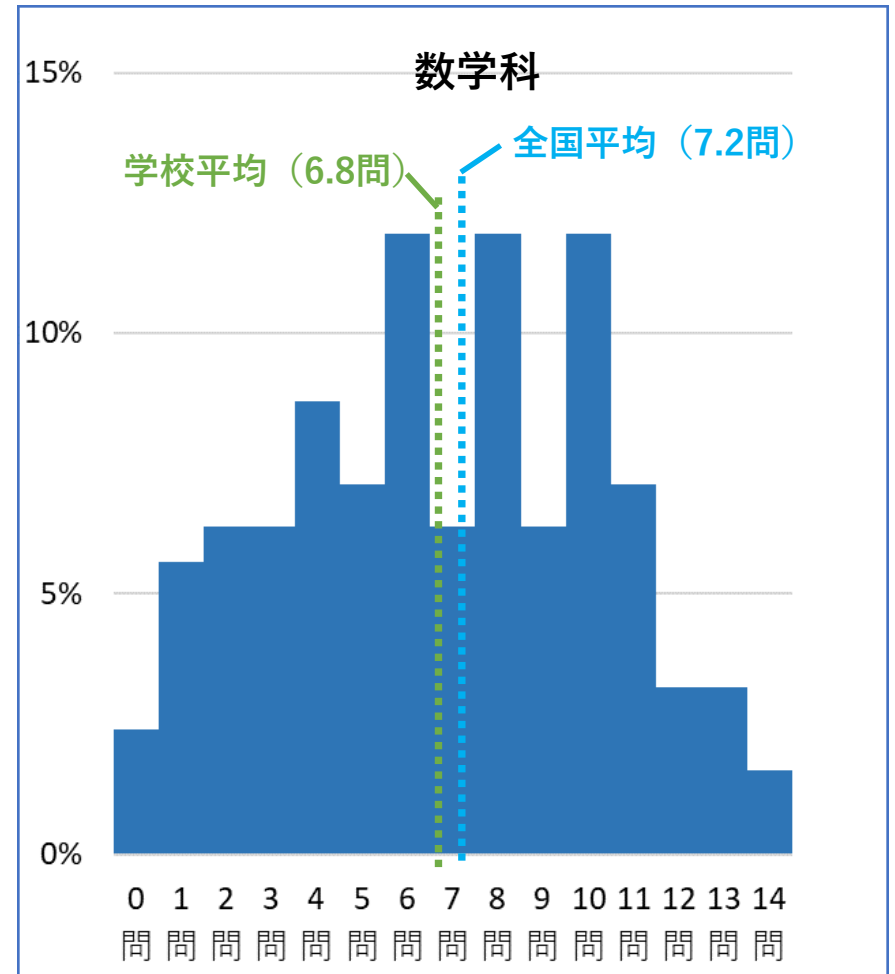
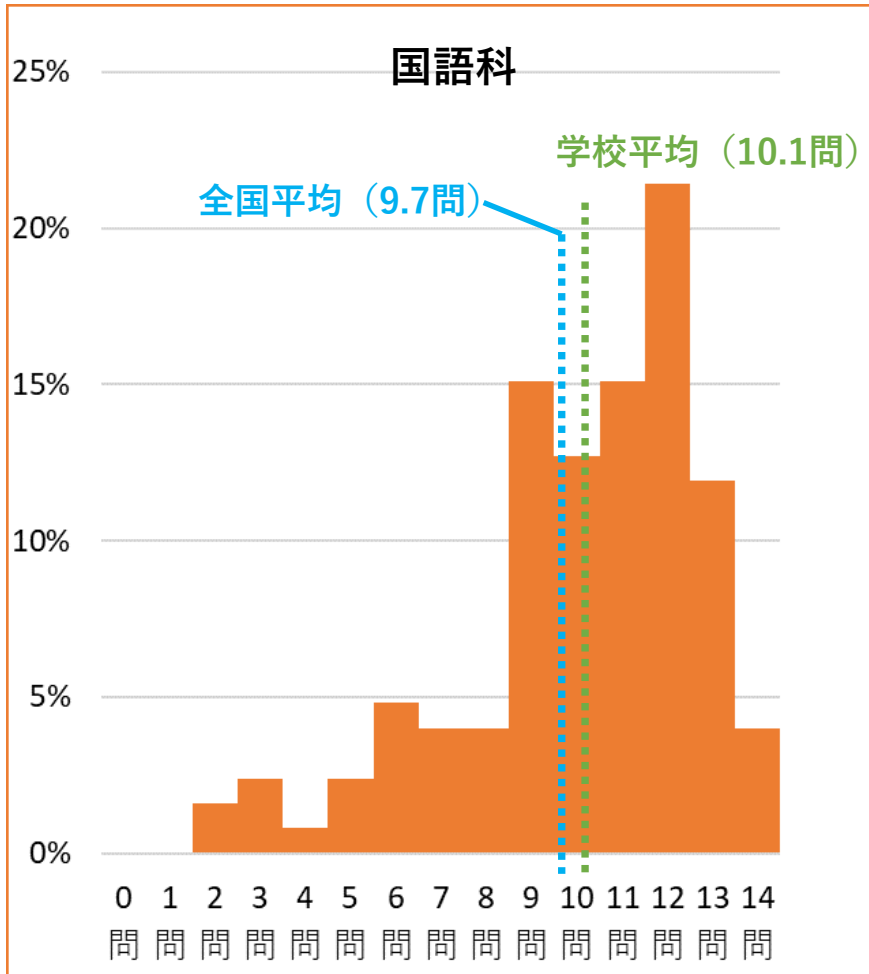
# 二極化が見られる(M字型の分布)





# 教科で平均正答数に差がある

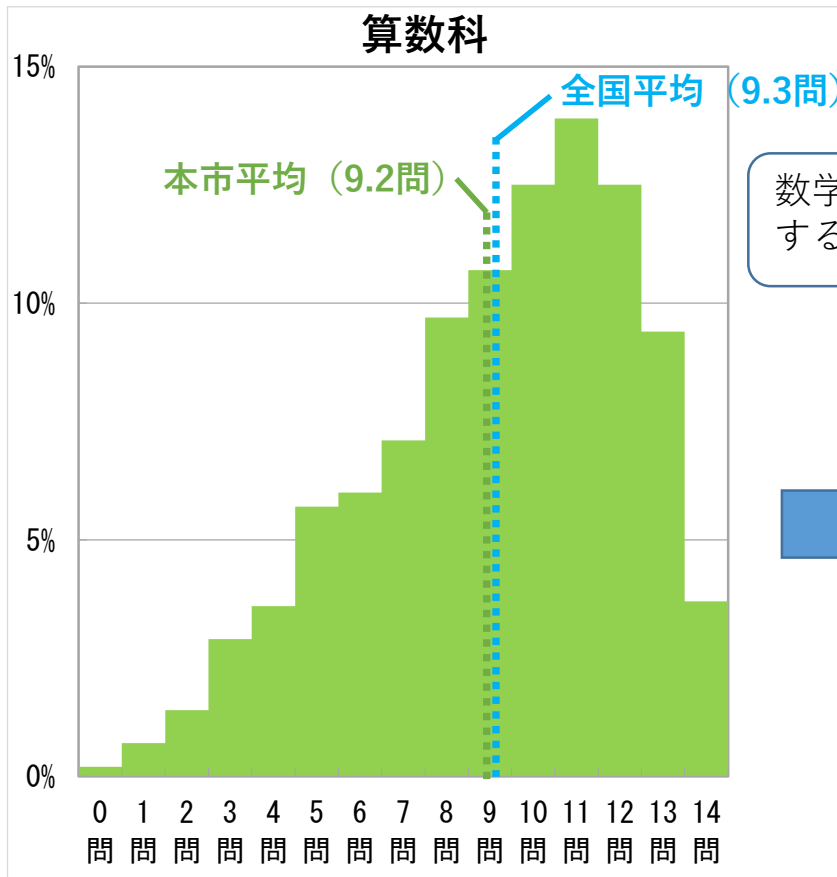
(国語:平均以上、数学:平均未満)



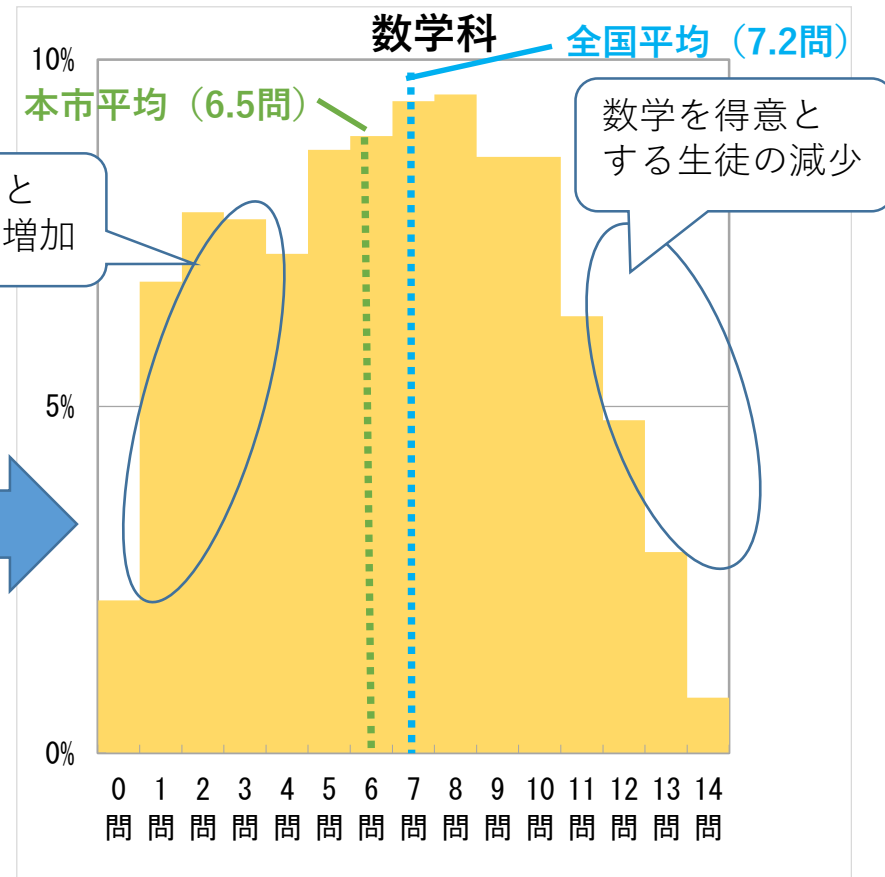


# 小学校算数から中学校数学への接続に課題

## 平成31年度 小学校6年生



## 令和4年度 中学校3年生



# 学校カルテ

## 【目的】

各学校について、全国学力・学習状況調査等の分析結果を踏まえた学力向上アドバイザーの所見等をまとめ、学校の管理職との面談資料として使用。

教科学力や学習状況等をデータで示すことで、課題を客観的に把握し、各校の課題やニーズに応じた助言・支援を行う。

### ① 教科学力

・全国学力・学習状況調査における「国語」「算数・数学」「理科（実施年度のみ）」「英語（実施年度のみ）」の各領域・評価の観点の平均正答率について、全国・県・学校の比較  
⇒学習理解状況（強み・弱み）の把握

### ② 非認知能力（学力を支える要素）

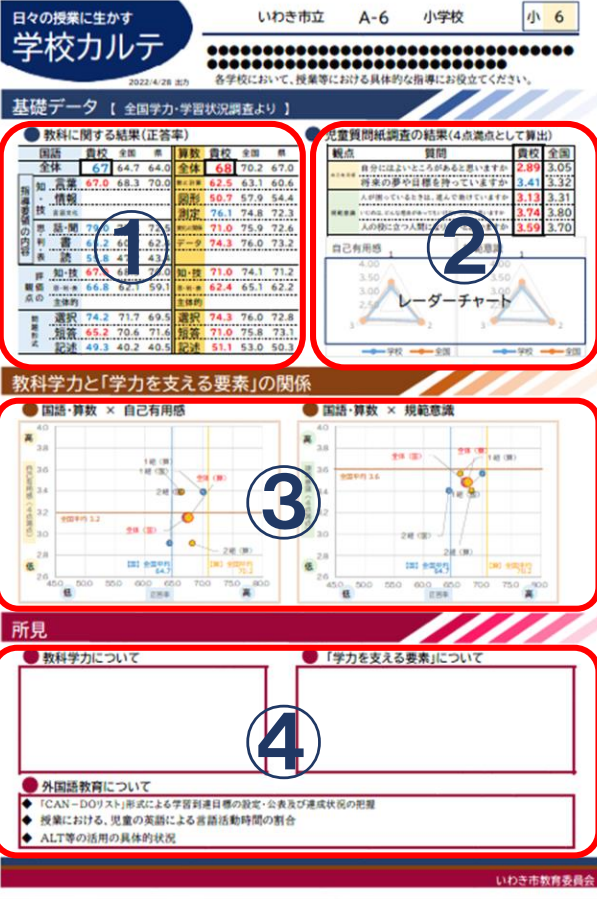
・全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙から、非認知能力（自己有用感、規範意識）に係る項目の平均ポイントについて、全国・県・学校の比較  
⇒自校の特徴・傾向の明確化

### ③ 教科学力と非認知能力との相関関係

・横軸を平均正答率、縦軸を非認知能力（自己有用感、規範意識）とした散布図で学年・学級ごとの特徴を示す。  
⇒学力向上に向けた課題（強み・弱み）や傾向を学校及び学級単位で把握

### ④ 所見

・学力向上アドバイザーが各校の分析結果を踏まえ、学力向上策や学校が直面する課題に対する対応策等について助言する。6





# 令和5年度～の取組

## ○学力向上チームの体制強化

学力向上アドバイザーの増員(+1名、計4名)

⇒ 学校訪問回数を増加

特別支援教育アドバイザーの増員(+1名、計2名)と学校訪問への帯同

⇒ 特別支援教育の観点から学習環境の改善指導

## ○学校カルテの進化（第2世代）

全国学調、ふくしま学調、本市独自アンケート調査(I-SUS)の各データを連動させて分析(子どもの伸びの要因を分析)





# 今後のデータ分析

【子どもの“伸び”の要因を分析】

対象範囲：各学年 ⇒ 各学級単位へ  
分析内容：

- 教科学力分析(領域、内容)
- 非認知能力の分析(自己有用感、規範意識等)
- 児童生徒・学校質問紙分析  
(学習習慣や生活習慣、学びに向かう姿勢等)
- 学級集団の特徴(生活充実度、学校適応度、自分の捉え方等)
- クロス分析(正答率との相関関係)

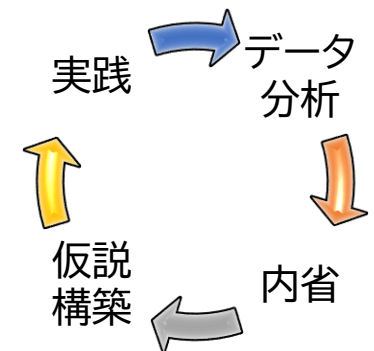
全国学調  
(小6、中3)  
《教科学力》

複合分析

ふくしま学調  
(小4～中2)  
《子どもの“伸び”》

I-SUS  
(小4～中2)  
《非認知能力・特性》

PwCコンサルティング合同会社に委託



**データを蓄積し、分析結果を各校の学力向上策に活かす**



# 教員の授業力及び資質能力の向上に向けた研修支援

## 【研修内容例】

「データの活用方法」

「児童生徒の主体性の引き出し方」

「実効性のある校内研修」

「エビデンスに基づく授業づくり」 等

※ ワークショップ実施校を10校選定し、校内研修を強化



# ○授業改善の取組（学校訪問に加え）

## ① 教員研修の見直し(授業を改善する講座の充実)

⇒ 授業力向上講座における取り組み

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善やICT機器の活用に加え、本市の学力向上施策等を踏まえた研修とする。

- 1 授業力向上講座Ⅰ(基礎)…市の学力向上施策に係る講義・演習を実施する。  
例) 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた  
授業改善について
- 2 授業力向上講座Ⅱ(実践)…具体的な授業実践をもとにした講義・演習  
例) 教科の特性を生かした授業の展開
- 3 授業力向上講座Ⅲ(応用)…筑波大学附属小・中学校の教員による出前授業  
(国語、算数・数学、理科)  
例) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善



## ② 研修動画の作成

目的: 実際の授業をもとにした**授業改善に係る動画**による研修教材により、

**限られた時間の中でOJTによる研修**を効率的・効果的に進めていくため

構成: 研修内容(研修テーマ)を1つに絞り、短時間(15分程度)で視聴できるもの

例)「児童生徒の興味・関心を高める工夫」

「自分の考えをもたせる工夫」

「振り返りの時間の工夫」など

作成する教科: 国語、算数・数学、理科、社会、外国語、道徳



- ◎ GIGA端末等で視聴し、校内研修等で教員同士が協議等を行えるようにする。
- ◎ 個々の教員が抱える課題等に合わせて、教材研究等に活用できるようにする。



### ③ 授業のユニバーサルデザイン化

## Universal Design for Learning(UDL)



全ての子どもが主体的に参加し、わかりやすく学べる授業